

作成者:山根利之

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
インテリアプランニング1		建築学科／1年	2024／後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	11	22時間	必須	山根利之
授 業 の 概 要				
住宅のリビングルーム、マンションのエントランス空間をデザインするための基礎的な知識・技術を修得する。				
授業終了時の到達目標				
インテリア設計プロセスを理解できる。さらに基本となる表現テクニックが身につく。 (基本目標:C評価以上) ・インテリア空間のコンセプトを立案することができる ・基本的なインテリア計画に沿って設計できる (標準目標:B評価以上) ・インテリア空間のコンセプトに基づいたデザインができる ・基本的なインテリア計画に沿った正確な図面表現によって設計できる (発展的目標:A評価) ・インテリア空間のコンセプトに基づきデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる ・正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所の経験を活かし、内部空間をデザインするための知識と技術を教える。		
時間外に必要な学修				
設計課題に関する事例データ収集と施設調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要説明 第1課題 ①「住宅のリビングルーム」 ②「お気に入りのインテリア 写真のトレース着彩」		課題説明 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。 様式、デザイナー研究	
2-3	確認		①デザインレビュー ②トレース確認	
4	第1課題プレゼン		発表と講評	
5	第2課題 「マンションのエントランス」		課題説明 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。 マンションのエントランス研究	
6-7	デザインレビュー		ラフデザイン案発表、コンセプト	
8	中間プレゼン		発表と指示	
9	デザインレビュー、作業		模型、作品ボード作業	
10	第2課題プレゼン		発表と講評	
11	予備日		不合格者再提出	
教科書・教材			評価基準	評価率
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式			課題	100.0%
			提出期限に遅れた場合、追課題を課す。	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
修了制作		建築学科/1年	2025/後期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	69	138時間	必須	山根利之 t
授 業 の 概 要				
1年間の総括として住宅、集合住宅を自分でテーマを決めてそれについて設計し、発表を行う。				
授業終了時の到達目標				
自分でテーマを決めて、コンセプトに沿って設計をまとめることができる。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所の経験を活かし、建築の設計の知識と技術を教える。			
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要説明 第1課題 「修了制作」		テーマ設定のための調査	
2-66	デザイン案検討		コンセプト立案、エスキス、ラフ模型検討 作図、模型製作、ボード構成	
67-69	最終プレゼン		完成模型、作品ボード	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
		課題	100.0%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉住環境計画論		インテリアデザイン学科/1年	2025/後期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	15	30時間	必須	杉原 祥太
授 業 の 概 要				
高齢者や障害者に対して住みやすい住環境を提案するための福祉、建築・インテリアなどに関する知識を体系的に身につける				
授業終了時の到達目標				
高齢者や障害者の具体的事例に対して適切に対処できる。住環境整備に関する制度や設計指針の活用法、また福祉用具、介護用品から家具の選択と利用方法を理解・習得し、適切なアドバイスができるようになる。				
実務経験有無		実務経験内容		
有	介護施設での介護・福祉に関する全般的な実務経験			
時間外に必要な学修				
生活している中にあるバリアを発見する。高齢者や障害者と共生するとはどういうことかを考えてみる。				
回	テ ー マ		内 容	
1～3	第一章 暮らしやすい生活環境を目指して		①授業概要、1節 少子高齢社会と共生社会への道 ②2節 福祉住環境整備の重要性・必要性 ③3節 在宅生活の維持とケアサービス・高齢者との関わり	
4～5	第二章 健康と自立を目指して		④1節 高齢者の健康と自立 ⑤2節障害者が生活の不自由を克服する道	
6～8	第三章 バリアフリーとユニバーサルデザイン		⑥1節 バリアフリーとユニバーサルデザイン 2節生活を支えるさまざまな用具 ⑦前半テスト(第1章～第3章) ⑧2節 生活を支えるさまざまな用具・第4章について	
9～10	第四章 安全・安心・快適な住まい		⑨1節 住まいの整備のための基本技術・社会の現状について ⑩2節 生活行為別に見る安心、安全、快適な住まい	
11	排泄・整容・入浴介助について		高齢者や障害者の方への生活に関する介助方法について	
12～14	第五章 安心できる住生活とまちづくり		⑪1節 ライフスタイルの多様化と住まい ⑬2節 安心できる住生活 3節 安心して暮らせるまちづくり ⑭後半テスト(第3章～第5章)	
15	特別講義		⑮共生社会について:写真家の方に実体験をもとに共生社会・多様性について講義をしていただきます。 講義後、レポートを提出。	
教科書・教材			評価基準	評価率
福祉住環境コーディネーター検定試験3級			・前半試験 ・後半試験 ・レポート提出	45% 45% 10%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
社会人基礎		全学科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	30回	90時間	必須	西川 寛
授 業 の 概 要				
・専門学校での学習の意味を理解し進路を決定する際に必要な知識とスキルを身につける ・日頃の習慣が自分の進路選択に与える影響が大きいことを理解する ・その他学習状況のヒアリングや個別のアドバイスを実施する(HR的内容)				
授業終了時の到達目標				
・自己PRや志望動機など履歴書に必要な項目を自ら考えて表現することが出来る ・就職活動の進め方を理解し自主的に活動することが出来る ・物事の見方と考え方や話しを聴くことの重要性を理解して問題意識を持つことが出来る				
実務経験有無	実務経験内容			
有	人材総合サービスにて人材育成支援に従事			
時間外に必要な学修				
・良い習慣を身につけるために自分がすべきことに気付き日々行動すること(日々の振り返りと反省と反復)				
回	テ ー マ	内 容		
1	新しい学びを効果的にする	穴吹学園での学び方について(社会人基礎で学ぶ内容について)		
2		話の聴き方(メモ、スケジュール管理の重要性)		
3		偶然がつくる人生 →宿題①		
4		モノの見方① →宿題②		
5		モノの見方② →宿題③		
6	卒業後をイメージして学ぶ	就職活動の世界を知る① →宿題④		
7		就職活動の世界を知る② →宿題⑤		
8	文章による表現の仕方を学ぶ	履歴書の書き方と伝え方+履歴書を作成する(左半分) →宿題⑥		
9		自分を知る工夫①(自己分析)		
10		自分を知る工夫②(他己分析)		
11		文章の書き方と構成の仕方(自己紹介文作成)		
12		文章の書き方と構成の仕方(自己紹介文作成) →課題①		
13		文章の書き方と構成の仕方(自己紹介文+記入)		
14		文章の書き方と構成の仕方(趣味特技・特記事項作成)		
15		文章の書き方と構成の仕方(趣味特技・特記事項+記入)→課題②		
16		資格・検定の記入		
17	情報の集め方を学ぶ	求人票の見方を知る		
18		情報収集編(学校メールの活用+情報収集の方法)		
19		興味のある仕事について調べる		
20		興味のある仕事について調べる(志望動機を考える)		
21		興味のある仕事について調べる(志望動機を考える+記入)		
22	言葉での表現の仕方を学ぶ	考え方(その1)①②		
23		他の学生との違いをアピールする方法		
24		企業の話しを聞こう		
25		面接のポイントを理解する		
26	進路について考える	進路面談(進路調査票記入+履歴書)記入 →課題③		
27		進路面談(進路調査票記入+履歴書)記入		
28		進路面談(進路調査票記入+履歴書)記入		
29		進路面談(進路調査票記入+履歴書)記入		
30		進路面談(進路調査票記入+履歴書)記入		
教科書・教材		評価基準		評価率 その他
テキスト：熱血！森吉弘の就勝ゼミ教材		出席・授業態度・取り組み方・宿題①～⑥ 提出課題評価①～②		60% 40% 質問はメールにて受け付けます

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
空間表現基礎1		建築学科/1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
180	11	44時間	必須	小笹和子
授 業 の 概 要				
手描きパースの指導・実習を行う。住宅のインテリア空間及び外観をスケッチ、パース(簡略図法)で立ち上げインキングや着彩を行う。				
授業終了時の到達目標				
[基本目標]・図面を基に縮尺に正確に立ち上げが出来る・パースのグリッドの取り方を理解する・マーカーによる着彩表現が出来る [標準目標]・自身の空間デザインイメージを正確に一消点パースで表現出来る・アイソメトリックパースで空間表現が出来る・マーカーによる着彩表現のステップアップ(特に陰影表現) [発展的目標]・二消点の室内パース、及び、二消点の外観パース表現が出来る・シーンに応じてドローイングの使い分けが出来る・インテリア及びエクステリアのデザインイメージが表現出来、実務で素早く対応出来るフリーハンドスケッチが描ける・パースを取り入れたプレゼンテーションが出来る				
実務経験	実務経験内容			
有	パース製作デザイン事務所を経て、内装及び外観パース製作・指導に従事。他、手描きイラスト制作等。			
時間外に必要な学修				
立体や空間を二次元で表現する演習なので、小さなスケッチ帳を日頃から携行し、モノやデザインのイメージ等をラフスケッチする癖をつけることが実践に繋がる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	第1課題「箱のスケッチ」	授業概要説明・フリーハンドラインレッスン・箱のスケッチ演習		
2	点景演習・一消点パースの基礎	家具、グリーン、人物、車の点景演習・四角い箱を立ち上げるレッスン		
3	第2課題「室内の一消点パース基礎」	一消点パースのグリッドの作成及び下書き		
4		ピグマにてフリーハンドインキング、マーカー着彩仕上げ・次課題の準備		
5	校外学習①	ショップ見学とスケッチ演習		
6	第3課題「室内の一消点パース応用」	グループワーク、プランニング、外観二消点パース制作		
7	「外観二消点パース」	室内の二消点パースのグリッドの作成及び下書き、インキング		
8		アイソメトリックパース(パース応用)		
9		マーカー着彩仕上げ、ボード制作、グループプレゼンテーション		
10	校外学習②	出張ワークショップ		
11	講評	まとめ・個人面談(予定)		
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
「スケッチ感覚でインテリアパースが描ける本」 製図道具一式・マーカー		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100.0%	質問等はメールでも受け付けます。補習も要相談

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
計画論1		建築学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	岩竹俊範
授 業 の 概 要				
人間の基本動作から導き出される各部寸法の把握、および小規模建築から、より広範囲にわたる大規模建築の計画基礎を学び、建築、 インテリアをデザインする上で必要となる事項を修得する。				
授業終了時の到達目標				
規模計画のための原単位と各建築物およびその室の計画要点を理解することができる。 ・（A評価）小テスト合計80点以上 8割以上 ・（B評価）小テスト合計70～79点 7割 ・（C評価）小テスト合計60～69点 6割 ・レポートの課題を出した場合は評価に加味する				
実務経験有無		実務経験内容		
有		ure主催。 設計、監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
次回授業範囲の教科書を予習する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	第1章 計画と設計		授業内容、評価方法の説明。 なぜ建築計画を学ぶか	
2	第2章 居住施設の計画		住様式と住宅の変化、戸建住宅	
3			戸建住宅、集合住宅	
4			集合住宅	
5			細部計画	
6	第3章 学校教育施設の計画		幼稚園（保育園）	
7			小学校・中学校	
8	第4章 社会教育施設の計画		生活圏とコミュニティ施設、図書館	
9			美術館、コミュニティセンター・公民館	
10	第5章 医療施設・福祉施設の計画		高齢社会と建築計画、病院	
11			病院、高齢者施設	
12	第6章 商業施設の計画		規模計画と経済効率、事務所ビル	
13			劇場・音楽ホール、百貨店・スーパーマーケット	
14			宿泊施設（ホテル）、駐車場	
15	第7、8章 外部空間の計画 自然現象、建築、知覚		外部空間把握、外部空間の計画手法、自然現象の知覚視覚と建築、寒暑感覚と建築、聴覚と建築	
教科書・教材			評価基準	評価率
初学者のための建築講座 「建築計画」 （市ヶ谷出版社）			小テスト+レポート	100.0%
				簡単な質問は授業前、後に受け付ける。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
建築CAD製図1		建築学科/1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	単位時間数	必須・選択	担当教員
180	15	60時間	必須	橋本明美
授 業 の 概 要				
建築CADソフトJW_cadの操作を習得し、CADによる図面の作成方法等について学ぶ。				
授業終了時の到達目標				
CADの特徴を理解し、操作方法を身に付け、習得した建築製図や設計手法をCADで表現できる。				
[基本目標:C評価以上]				
・基本的な設定が理解でき、図形の作図ができる				
・簡単な家具や平面図の作図ツールの操作が理解できる				
・図面作成のための作図ツールの操作が理解できる				
[標準目標:B評価以上]				
・作図手順を理解し図形の作図が正確にできる				
・作図手順を理解し家具や平面図の作図ができる				
・建築製図の知識をもとに図面の作図ができる				
[発展的目標:A評価]				
・作図ツールを使いこなし要求した図形の作図ができる				
・作図手順を理解し家具や平面図の作図が正確にできる				
・建築製図の知識をもとに作図ツールを使いこなし、図面の作図ができる				
実務経験有	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務			
時間外に必要な学修				
CADソフトを使ってどれだけ作図したかがCADの技術習得の向上につながるので、操作の復習など積極的にCADを使って慣れる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	授業概要と基本操作	JW_cadの基本操作 作図と消去、画面表示の操作、作図の編集		
2	作図練習①	課題図面の作図 寸法の決まった図の作図と図面保存		
3	作図練習②	課題図面の作図 図面を開き、かき加える		
4	作図練習③	課題図面の作図 家具の作図		
5	作図練習④	課題図面の作図 簡単な平面図の作図		
6	作図練習⑤	課題図面の作図 文字の記入、寸法の作図		
7	レイヤ操作の習得と図面枠の作図	レイヤ操作練習 図面枠の作図		
8	基本的な平面図の作図①	課題図面の作図① 事務所ビル1階平面図の作図		
9	基本的な平面図の作図②	課題図面の作図② 事務所ビル1階平面図の作図		
10	基本的な平面図の作図③	課題図面の作図③ 事務所ビル2階平面図の作図		
11	基本的な平面図の作図④	課題図面の作図④ 事務所ビル2階平面図の作図		
12	応用課題①	課題図面の作図① 住宅図面のトレース		
13	応用課題②	課題図面の作図② 住宅図面のトレース		
14	応用課題③	課題図面の作図③ 住宅図面のトレース		
15	まとめ	課題図面の手直し、ブラッシュアップ		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・やさしく学ぶJw_cad8デラックス版 ・プリント配布		到達目標の到達度と課題提出物により総合的に評価する。	100%	

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
建築CAD製図2		建築学科/1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
180	15	60時間	必須	半田和之
授 業 の 概 要				
3DCADソフトを使用して設計図を3次元化しプレゼンテーションの幅を広げる為の技術を養う。				
授業終了時の到達目標				
1. ソフト基本操作を理解し、図形の作図ができる 2. 2次元及び3次元ツールを操作し、図面の作図ができる 3. 3DCADを活用し、プレゼンテーション内容の充実を図ることができる				
到達目標に応じた学修目標 [基本目標:C評価以上] ①基本的な設定を理解し図形の作図ができる ②図面作成のための作図ツールの操作が理解できる ③図面レイアウトや図面表現のための設定が理解できる				
[標準目標:B評価以上] ①要求されている図形の作図ができる ②建築製図の知識をもとに図面の作図ができる ③設定やツールを使いこなして図面の作成ができる				
[発展的目標:A評価] ①要求されている図形の作図やデザインができる ②要求されている図面のレイアウトや図面表現ができる ③自分なりに工夫し図面レイアウトや図面表現ができる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験		
時間外に必要な学修				
授業で学んだことを他の授業でも活用し、実践を通して理解を深めること。 また、建築インテリアに限らず専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	3DCGとは		授業内容の説明、ソフトの説明、ソフトのインストール、作業環境設定、ソフトの操作	
2	基本操作Ⅰ・Ⅱ【SKETCHUP】		画面と各部名称 基本操作、レイヤの設定と縮尺 3D作図の基本	
3	3D作図基礎Ⅰ【SKETCHUP】		3D作図の基本	
4	3D作図基礎Ⅱ【SKETCHUP】		3Dモデリング1	
5			3Dモデリング2	
6			3Dモデリング3	
7	3D作図基礎Ⅲ【TWINMOTION】		3Dレンダリング1	
8			3Dレンダリング2	
9			3Dレンダリング3	
10	3D作図応用【SKETCHUP+TWINMOTION】		課題作図 名作住宅を作る1	
11			名作住宅を作る2	
12			名作住宅を作る3	
13			名作住宅を作る4	
14			名作住宅を作る5	
15	まとめ		講評会、課題作品のブラッシュアップ	
教科書・教材			評価基準	評価率
SketchUpパーフェクト 作図実践+テクニック編 課題資料:プリント配布			到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%
				その他
				質問, チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
材料学		建築学科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	15	30時間	必須	玉田美貴
授 業 の 概 要				
建築・インテリア空間を構成しているものすべてが「インテリアエレメント」。項目ごとに、種類および分類をテキスト・写真で確認し、知識を深めていく。木質系素材・左官・タイル・ガラスなどの具体的な建築材料の性質と特徴などを項目ごとに学ぶ。また、机上のみではなく、実物に触れることにも重点を置きたい。なお知識定着のため期末試験及び期末レポートを提出させる。この授業を通して得た知識を建築設計・インテリアコーディネートPLANに反映させる。				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C以上)				
・インテリア空間を構成している様々な要素と役割を理解できる				
・建築を構成する部材はどのような材料でできているのか理解できる				
(標準目標:B以上)				
・各インテリアエレメントの商品知識と専門用語を理解できる				
・建築材料の性能・特徴の理解が深まっている				
(発展目標:A)				
・建築設計に必要な材料選定の基本が理解でき、PLANに反映できる				
・エレメントの知識を活かした幅広いスタイルのインテリアコーディネート・デザインができる				
・インテリア・建築に関する資格習得につなげる				
		実務経験内容		
有	インテリアコーディネート・デザイン(戸建・集合住宅・店舗・事務所等)の実務経験			
時間外に必要な学修				
各回の授業の内容をテキストで見直し、自分なりに整理する。身の回りのインテリアエレメント・インテリア材料・建築材料を意識する。また建築材料は日進月歩進んでいる。専門雑誌やwebなどの関連参考資料など情報収集することを習慣化すると共に、日頃から建築物や内装に目を向け、素材は何を使っているのか？探求する心を養う。				
回	テ ー マ		内 容	
1	インテリアエレメント		インテリアエレメントとは	
2	建具・フローリング		建具・フローリングの種類・特徴・構造など	
3	家具		家具の分類・名称・椅子のデザインなど	
4	内装の仕上げ材		床・壁・天井材料の種類	
5	照明		照明の基礎知識・照明器具・光源など	
6	モデルルーム見学		各素材の使用の仕方・採用の仕方を体験	
7	メラミン化粧板・ポリ合板・シート 等		メラミン化粧板・ポリ合板・シート等の特徴・使い方・その他	
8	ウインドウトリートメント		窓装飾の機能と役割・種類・カーテンのスタイル	
9	内装材見学		床材・壁紙・カーテン等のメーカーサンゲツさまショールーム見学	
10	窓回りメーカー新作展示会見学		TOSOさま新作展示会見学	
11	設備機器		キッチン・浴室・トイレ・洗面 TOTO様ショールーム見学	
12	焼成品・ガラスと石・左官材料・その他の材料		タイル・レンガ・瓦・ガラス・石・左官・その他(塗料・プラスチック等)の特徴・種類	
13	照明メーカーショールーム見学		照明メーカー大光電機様ショールーム見学	
14	和室の造作・インテリアアクセサリ		和室各部の名称など・インテリアアクセサリの種類	
15	まとめ試験		復習まとめ試験及び私の好きな材料についてレポート提出	
16				
17				
18				
19				
20				
21				
22				
23				
24				
25				
26				
27				
28				
29				
30				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
世界で一番やさしいインテリア やさしい建築材料 プリント		各授業レポート 期末レポート 授業への取り組み	50% 40% 10%	質問、チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
空間表現基礎2		建築学科・商品企画デザイン学科／1年	2025／前期	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	15回	30時間	必須	年盛寛
授 業 の 概 要				
Adobe Illuustrator、Photoshopの基礎を学び、作りたい印刷物の制作ができるようになる。				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C以上) ・Adobe illustrator,Photoshopを用いて、表現することができる。 (標準目標:B以上) ・Adobe illustrator,Photoshopを用いて伝わるデザインを、表現することができる。 ・Adobe illustrator,Photoshopの操作を理解し、印刷設定ができる。 (発展的目標:A) ・Adobe illustrator,Photoshopを用いて他にはない工夫を凝らし伝わるデザインを表現することができる。 ・Adobe illustrator,Photoshopの操作を理解し、他者に教えることができる。 ・印刷の設定を間違いなくすることができる				
実務経験有無	実務経験内容			
無				
時間外に必要な学修				
基本操作の復習、エクストラ問題へのチャレンジ				
回	テ ー マ	内 容		
1	オリエンテーション	IllustratorとPhotoshopの違い		
2	Illustratorの基本知識	解像度の話 Illustratorの特徴 レイヤーの概念 ツールの紹介 塗と線		
3	基本的な図形を描いてみよう	図形ツールの使い方 ① Training Sheetで実習 拡大縮小・回転・移動 色について		
4	複雑な図形を描いてみよう	オブジェクトの複製 ② Training Sheetで実習 回転ツール、変形ツール、ブレンドツール パスファインダー クリッピングマスク		
5	ペンツールの使い方	ペンツールの基本操作 ③Training Sheetで実習 ハンドルの切り替え アンカーポイントの切り替え パスの削除と追加		
6 ～ 7	Photoshopの基本知識	解像度について Photoshopの特徴 レイヤーの概念 ツールの紹介		
8	選択範囲	なぜなわツールと自動選択ツール、被写体を選択 ブラシを使った選択 色を使った選択		
9	切り抜きと合成	画像の切り抜き コラージュ作品作成 ④コラージュ作品		
10	色調補正とフィルター	画像加工 調整レイヤー レイヤースタイル		
11	文字と写真を入れよう	文字の入力と調整 文字のアウトライン化 画像の配置について 形に沿った文字入力と加工(袋文字や影)		
12 ～ 13	名刺を作ってみよう	トンボについて ガイドについて 定規の表示 整列パネル 特定のオブジェクトを基準とした整列 フォント レイアウトについて		
14 ～ 15	ロゴを作ってみよう	ロゴと名刺を合わせて⑤オリジナル名刺完成		
	まとめ	振り返り		
教科書・教材		評価基準		評価率
Trannig Sheet、スライド、参考資料などを		課題①～⑤		各20%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
ショップデザイン		建築学科／1年	2025通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	26	52時間	必須	河江正雄
授 業 の 概 要				
実際の設計業務に即し前期は1授業1テーマとして、イメージ模索、基本 計画、プレゼンボードの作成、プレゼン資料の作成をする。				
授業終了時の到達目標				
実際に設計を行う際に必要である業務を1年に渡って習得する。 実践で必ず必要となるプレゼン能力も同時に高める。				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また、専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	1年間の授業内容の説明、資料配布	課題01、課題02、課題03-1		
2		課題03-2、模型の作り方の基本		
3		課題03-3、模型の作り方の基本		
4		課題03-4、模型の作り方の基本		
5		課題03-5、模型の作り方の基本		
6		課題03-6、模型の作り方の基本		
7		課題03-7、模型の作り方の基本		
8		課題03-8、模型の作り方の基本		
9		課題03-9、模型の作り方の基本		
10		課題03-10、模型の作り方の基本		
11		課題03-11、模型の作り方の基本		
12		課題03-12、模型の作り方の基本		
13		課題03-13、模型の作り方の基本		
14		課題03-14、模型の作り方の基本		
15		課題03-15、模型の作り方の基本		
16		課題03-16、模型の作り方の基本		
17		課題03-17、模型の作り方の基本		
18		課題03-18、模型の作り方の基本		
19		課題03-19、模型の作り方の基本		
20		課題03-20、模型の作り方の基本		
21		課題03-21、模型の作り方の基本		
22		課題03-22、模型の作り方の基本		
23		課題03-23、模型の作り方の基本		
24		課題03-24、模型の作り方の基本		
25		課題03-25、模型の作り方の基本		
26		課題03-26、模型の作り方の基本		
27		修了制作		
28		修了制作		
29		修了制作		
30		修了制作		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
模型道具一式 製図道具一式		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問, チェック依頼はEメールでも受け付けます。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
空間表現応用		建築学科/1年	2025/通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90分	24回	48時間	必須	佐々木智子
授 業 の 概 要				
・デザインにおける色彩の働き、重要性を知る。・系統的な色表示、さまざまな配色類型、色彩の心理的な側面を学ぶ。・色彩コンセプトに基づいた作品構成及びプレゼンテーションを行う。・色彩の基礎知識を学ぶことにより、個性を生かしながら、空間デザインにおける表現を豊かにする。・色彩検定UC級以上の合格を目指す。				
授業終了時の到達目標				
基本目標:C評価以上 ・ヒュートーンシステムの概念について理解し、カラーコードとして使用できる・基礎配色をデザインに活用できる・色彩の科学について理解する				
標準目標:B評価以上 ・色彩検定UC級合格もしくはそれに準ずる学習度に達している				
発展的目標:A評価 ・デザインに対し、オリジナルな創作的姿勢や関心を持って取り組む				
実務経験有無		実務経験内容		
有		パーソナルカラールームT・I、NPO法人カラーリストジャパン協会でのカラーコンサルティングの経験を生かし、建築・インテリアにおけるカラーコーディネートの実務を指導する。		
時間外に必要な学修				
身の回りにあるさまざまな色彩デザインに興味を持つこと。				
回	テ ー マ		内 容	
1	デザインと色彩について/色彩検定ガイダンス		授業の目的と進め方について、配色シートの作成、色彩検定に関する説明	
2	カラーシステムの理解		色の表示方法:PCCS、ヒュートーンシステムについて理解する、トーン図作成	
3			トーンイメージに基づく平面構成演習	
4			色相イメージに基づく平面構成演習	
5	色彩の心理的側面		色彩心理:色から連想されるもの、受けるイメージについて理解する	
6			色彩感情と色のイメージ	
7	基礎配色		色相配色について理解する	
8			トーン配色について理解する	
9			アクセントカラー、セパレーション、グラデーション	
10	環境における色彩計画		色彩が生活空間にどのような影響を与えるのか確認する	
11	色彩応用演習		配色分析／作品構成	
12	カラーサイエンス基礎①		色と光について	
13	カラーサイエンス基礎②		眼の構造及び働き	
14	カラーサイエンス基礎③		色の視認性、誘目性、識別性	
15	カラーコードに関する知識をその活用		マンセルシステム	
16	色彩検定対策強化		色覚のタイプによる色の見え方	
17			高齢者の見え方	
18			ユニバーサルデザインの進め方	
19			色の機能的役割	
20			問題演習	
21			過去問題演習	
22			過去問題演習	
23	インテリアにおける色彩表現		配色類型に基づいてインテリアパースに着色	
24	〃		イメージ配色に基いてインテリアパースに着色	
教科書・教材			評価基準	評価率
色彩検定UC級公式テキスト 色彩検定過去問題 新配色カード199b			到達目標に即して各課題の提出状況及び到達度で評価する	100.0%
				その他

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
建築デザイン		建築学科／1年	2025／通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	26	52時間	必須	山根利之
授 業 の 概 要				
建築の設計について、動線計画、断面計画、グリッドプラン、敷地計画などの設計の基本手法を実践的に習得するとともに、提案力と独創性を実践的に習得する。また、作品としての表現力を向上させる。建築設計演習2(2年生)と合同授業。				
授業終了時の到達目標				
建築設計プロセスを理解できる。さらにそれらを活かして、修了制作へ発展させる。また、基本となる表現テクニックが身につく。 (基本目標:C評価以上) ・建築的空間の機能やコンセプトを立案することができる ・基本的な建築計画に沿って設計できる (標準目標:B評価以上) ・建築的空間の機能やコンセプトに基づいたデザインができる ・基本的な建築計画に沿った正確な図面表現によって設計できる (発展的目標:A評価) ・建築的空間の機能やコンセプトをデザインし、図面や模型を駆使して伝えることができる ・正確な図面表現とともにシャープな着想から導かれた独創性のある設計を提案できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所の経験を活かし、公共建築の設計の知識と技術を教える。		
時間外に必要な学修				
設計課題に関する事例収集と敷地環境調査を行い、設計検討を重ね、各回のデザインレビューの準備をする。				
回	テ ー マ		内 容	
1	授業概要説明 第1課題「都市環境デザイン1」		「場所をデザインする」オープンスペース(1, 2年生混成共同設計) 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。	
2～5	デザイン案発表、デザインレビュー		デザイン案発表 デザインレビュー	
6	プレゼン発表 5/28			
7	第2課題「図書館」		地域に開かれたコミュニティ図書館(1, 2年生混成共同設計) 小学校計画確認、敷地設定、事例調査、資料収集、 デザインテーマ・コンセプト検討。	
8～12	デザイン案発表、デザインレビュー		デザイン案発表、デザインレビュー	
13	プレゼン発表 7/30		ID2ショップデザイン2、インテリアコーディネート2との合同プレゼン。	
14	第3課題「都市環境デザイン2」		公衆便所(個人設計) 資料収集、事例紹介、デザインテーマ・コンセプト検討。	
15～19	デザイン案発表、デザインレビュー		デザイン案発表、デザインレビュー	
20	2年生プレゼン 11/5			
21～24	デザイン案発表、デザインレビュー 卒制中間プレゼン見学		デザイン案発表、デザインレビュー	
25	1年生プレゼン 12/10		1年第3課題の審査講評	
26	修了制作、予備日		不合格課題再提出	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布プリント 製図道具一式、模型製作道具一式		課題・レポート	100.0%	提出期限に遅れた場合、追課題を課す。

科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
建築製図		建築学科 / 1年	2025 / 通 年	演 習
授 業 時 間	回 数	授 業 時 数	必 須 ・ 選 択	担 当 教 員
180分	26回	104時間	必 須	岡田英治
授 業 の 概 要				
建築製図の基礎を実際の作図を通して習得する。 また、作図を通して建築・インテリア各部の基本的な名称、納まりなどについても学習する。 主に木造2階建て住宅を教材とし、鉄筋コンクリート造住宅についても行なう。				
授 業 終 了 時 の 到 達 目 標				
二級建築士試験における製図の試験課題の答案レベルの作図表現をめざす。 CAD製図及び実務のために必要な図面を読み取る能力も身に付ける。				
(基本目標:C評価以上) ・課題の内容を正しく作図できる				
(標準目標:B評価以上) ・課題の内容を正しく、かつ丁寧に分かりやすく作図できる ・作図した図面から立体空間を認識できる				
(発展的目標:A評価以上) ・課題の内容を正しく、かつ線の強弱を用いて丁寧に分かりやすく作図できる ・作図した図面から立体空間を認識できる				
実務経験有無		実務経験内容		
有		建築設計事務所での調査、企画、設計及び工事監理業務に関する実務経験		
時間外に必要な学修				
課題で作図している内容を自宅に置き換えて確認してみること。 また、各部分の寸法を実際に測ってみること。				
回	テ ー マ		内 容	
1	ガイダンス、第1課題:「線の練習」		授業の注意事項及び製図道具の説明	
2			線の太さと線の種類の描き分けの練習	
3	第2課題:「木造住宅 配置図・平面図」		教科書の木造2階建て住宅の配置図、各階平面図を作図する	
4				
5				
6				
7	第3課題:「木造住宅 断面図・立面図」		教科書の木造2階建て住宅の断面図、立面図を作図する	
8				
9				
10	第4課題:「鉄筋コンクリート造住宅 配置図・平面図」		教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の配置図、各階平面図を作図する	
11			る	
12			<本課題までを前期評価の対象とする>	
13	第5課題:「鉄筋コンクリート造住宅 断面図・立面図」		教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の断面図、立面図を作図する	
14				
15	実務の設計図とその施工中、竣工の様子の紹介		担当教員が実際に担当した住宅等の実務の紹介	
16	第5課題:「鉄筋コンクリート造住宅 断面図・立面図」		教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の断面図、立面図を作図する	
17	第6課題:「鉄筋コンクリート造住宅 矩計図」		教科書の鉄筋コンクリート造2階建て住宅の矩計図をトレースする	
18	第7課題:「木造住宅 矩計図」		教科書の木造2階建て住宅の矩計図をトレースする	
19	第8課題:「木造住宅 平面詳細図・展開図・天井伏図」		教科書の木造2階建て住宅の平面詳細図(和室)、展開図を作図する	
20			教科書には記載のない天井伏図についても作図する	
21				
22	第9課題:「二級建築士製図の試験過去課題答案例」		過去の二級建築士製図の試験で出題された課題の模範回答例を作図する	
23			る	
24			<本課題までを後期評価の対象とする>	
25				
26	まとめ・テスト		建築製図の総括と、スケール感のテストを実施する	
27				
28				
29				
30				
教科書・教材			評価基準	評価率
教科書:「初学者の建築講座 建築製図 最新版」 参考書:「構造用教材」 教材:平行定規他製図道具一式			全課題が提出され、到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する。	100%
				質問、チェック依頼などはEメールでも受付ます。

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
建築設計演習		建築学科／1年	2025／通年	演習
授業時間	回数	授業時数	必須・選択	担当教員
90	30	60時間	必須	衛藤翔平
授 業 の 概 要				
人間生活の基本となる住まい，居住空間の設計・デザインの知識と技術について，演習課題を通して体験的に習得する。住まいの設計はすべての建築（空間）設計の基本とも言われる。また，住まいとひと言で言っても，ハウスメーカーの住宅から集合住宅，建築家やデザイナーの設計による個性的な住宅など，現代社会の中で多様な在り方が見受けられる。この授業を通して，住まいの設計の基本，さらには，現代建築の文脈の中で新しい価値を生むような住まいの在り方を探究できるような視点を育てる。				
授業終了時の到達目標				
(基本目標:C評価以上) ・住宅設計の基本プロセスが理解できる ・手描きでエスキスやスケッチができる ・考えを少しでも設計に反映させることができる				
(標準目標:B評価以上) ・条件を整理し標準的な住宅が設計できる ・毎週（区切り）ごとに定期的にチェックを受けて案をより良いものに修正することができる ・第三者に伝えるうえで必要十分なプレゼン資料（模型・ボード）を制作できる				
(発展的目標:A評価) ・現代建築の文脈の中で先進的なコンセプト・提案性を持つ住まいの設計・デザインを考えられる ・他の学生に対し指標となる制作プロセスを授業中のデザインレビュー等で公開することができる ・第三者を魅了するプレゼン資料（模型・ボード）を制作できる				
実務経験有無	実務経験内容			
有	建築設計事務所での設計・監理業務に関する一連の実務経験			
時間外に必要な学修				
授業でのアドバイスを家庭学習に反映させ作業を進めること。 また，専門雑誌やwebなどの関連参考資料を常にチェックしておくこと。				
回	テ ー マ	内 容		
1	予備課題： 建築的（空間的）視点	自己分析 「好き」を言語化してみる(課題1)		
2		建築的視野／マイクロとマクロ(課題2)		
3	第1課題： 名作との対話	名作住宅の図面トレース，基本構造と間取りの分析(課題3)		
4		名作住宅を現代にアレンジするためのコンセプトを考える(課題4)		
5		プランニング		
6		住宅のサイズあれこれ		
7		平面図チェック(課題5)		
8		断面図のはなし		
9		模型で確かめる		
10		模型を撮影する(課題6)		
11		プレゼンボードの作り方		
12		↑		
13		My home 20XX：将来の自邸について考えてみる(課題7)		
14		公開プレゼンテーション		
15		前期総括		
16	第2課題：街に開いた住宅	コンセプトの設定(課題8)		
17		ゾーニングからのプランニング		
18		図面チェック(課題9)		
19		図面チェックバック		
20		プレゼン資料作成		
21		↑		
22		↑		
23		プレゼンボードにまとめる(課題9)		
24	第3課題：周辺環境を読む	コンセプト設定(課題10)		
25		(年内)	プランニング(課題11)	
26			図面チェックバック	
27			プレゼン資料制作	
28			↑	
29			プレゼンボードをまとめる(課題12)	
30			フィードバック	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
初めての建築設計ステップ・バイ・ステップ 模型道具一式 製図道具一式（平行定規を除く）		到達目標に即して各課題の提出物及び到達度で評価する	100%	質問，チェック依頼はEメールでも受け付けます。